

韓国環境部プレスリリース 2020年3月10日付

京畿道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 340-347 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1349825&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は3月9日に京畿道（キョンギド）、漣川郡（ヨンチョンゴン）、長南面（チャンナムミョン）、新西面（シンソミョン）、旺澄面（ワンジンミョン）および中面で発見された野生いのししの死体8個体から ASF ウイルスが検出されたと3月10日明らかにした。

□国立環境科学院は3月10日死体8個体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョンゴン）137件、漣川郡（ヨンチョンゴン）118件、坡州市（パジュシ）70件、鉄原郡（チョルウォンゴン）22件、合計347件の野生いのしし ASF 陽性事例となった。

○野生いのしし ASF 標準の行動指針により試料採取後現場消毒と共に冷たかった。

□国立環境科学院は「今回確診なった死体は全て広域フェンスの中で発見され、この地域では感染した死体がさらに出てくる可能性が高く、徹底した捜索を通じて感染死体を速かに除去する」と明らかにした。

以上